

令和5年度伊豆の国市環境審議会(第2回)

議事録

開催日時	令和5年10月19日(火) 13:30~15:30
開催場所	伊豆の国市大仁庁舎2階 第1会議室
出席者 (委員)	小嶋会長、服部委員、神田委員、児玉委員、瀬本委員、竹口委員、近田委員、 大沢委員、鈴木委員
配布資料	・次第 ・第2次伊豆の国市環境基本計画(案) ・第5章の構成 ・地方公共団体実行計画(区域施策編)策定実施マニュアル(簡易版)抜粋
(1)開会	
(2)会長あいさつ	小嶋会長よりあいさつ
(3)議事	第2次伊豆の国市環境基本計画について ・第1回環境審議会後の修正箇所 ・「第5章 地球温暖化対策実行計画(区域施策編)・気候変動適応計画」 議事に関して、事務局より配布資料の説明を行った上で、委員に対して発言を求めた。 ※委員発言、市からの回答は別紙のとおり

(4)その他

次回会議は令和6年1月25日とする。

(5)閉会

令和5年度伊豆の国市環境審議会（第2回）に関する委員意見のとりまとめ

1・開催日時・場所

日時：令和5年10月19日（火） 13：30～15：10

場所：伊豆の国市大仁庁舎2階 第1会議室

2・委員意見一覧「第2次伊豆の国市環境基本計画について」

①令和5年10月19日（火） 13：30～15：10

	委員発言	対応方針
1	「環境でおもてなし伊豆の国」を追加して頂き、よいと思った。市内には旅館もたくさんあり、食べきれないくらいのごちそうが出るので、食品ロスも出てくると思う。そういうものに堆肥化の道はあるか。	市の資源循環センター農土香において旅館の食品残渣も回収して、堆肥化を行っている。
2	農土香という施設はいい施設だと思う。臭いが出ないし、なかなかいい堆肥ができる。こういうものを大きくしていくというのを施策に入れていくのはどうか。計画中で盛っていただいてやってもらえると、伊豆の国市の特色のある取り組みができると思う。	
3	計画の進行管理については、幹部会議は行政経営会議に変わっているが、行政経営会議はどのような会議か。事務局はどこか。市の中でしか進行管理が動かないのか。環境審議会がどこに入ってくるのか、どこに関与してい	行政経営会議は部長職の会議、事務局は環境政策課である。環境審議会は条例で計画の策定・改定時に関わることになっ

	<p>くのかかわからない。計画が遅れたり、方向を変える時には内部で考えることか。</p>	<p>ている。事務局の方で計画の進捗などの検証を行い、行政経営会議で協議し、目標に向けて達成できない点等についての改善を図っていく。エコアクション 21 を運用してきた知識と経験を活かし、庁内でのマネジメントシステムを運用していく。</p>
4	<p>点検・チェックは内部でやるとよいが、評価は環境審議会があるので、諮問答申だけでなく関わられたらよい。毎年でもなくてもよい。「評価」ということだと、自分達だけで自己評価するのもよいが、外部の評価があるとよい。</p>	<p>条例では、環境審議会は計画の策定と変更時に諮問答申するという位置づけになっているが、1年に1回程度は審議会に報告して意見を伺いたい。</p>
5	<p>P49の環境でおもてなしは、誰におもてなしするのか。地域の住民におもてなしするのか、観光客におもてなしするということか。</p>	<p>どちらかが対象というわけではないが、環境に対する取り組みをする中で、市民生活にも観光客にも環境の良いところをアピールして、来た方にはおもてなしにつながるとよいと考えている。</p>
6	<p>伊豆の国市は環境に配慮していると見せたい、いろいろなことをやっていていいねと思われたいという意味である。</p>	<p>観光客にも環境の良いところをアピールして、来た方にはおもてなしにつながるとよいと考えている。</p>
7	<p>一つのキャッチコピーとして考えるとよいと思う。</p>	<p>キャッチフレーズとしてイ</p>

8	おもてなしという言葉が安易な言葉で、他にフィットする言葉はないのか。	メッセージを持ってもらいたい。
9	おもてなしの1番が脱炭素になっているから、メインは脱炭素になるのか。本当にやるなら、もっと具体的に数字を出してやるのがよい。伊豆の国市単独でできるのか。	脱炭素が必ずしもメインというわけではないが、脱炭素、資源循環、自然共生の3つの取り組みが連動して環境でのおもてなしにつながっていくことをイメージしたものである。
10	2030年に向けて今後は脱炭素の施策が当たり前になってくる。脱炭素が一番かどうかはわからないが、「脱炭素でおもてなし」はおもしろいフレーズで、他の市町にはない、観光を売りにしている伊豆の国市らしさがあり、目を引いて逆におもしろく、よいと思った。	
11	ここの取り組みが第5章や市民の取り組みの中に入っていない。第4章の市民の取り組みに環境でおもてなしに関連する取り組みを入れるとよい。	第5章、第4章の市民の取り組みなどに関連するものを追加する。
12	できるかどうかではなく、目指すということ。詳しい内容は別途、基本計画の次の段階の実施計画でやる。観光を売り物にしている伊豆の国市が脱炭素をやることを観光客がSNSで見えてやってくる。観光立国といわれている伊豆の国市が、環境基本計画の重点プロジェクトに位置づけた環境でおもてなしをする。ここに行ったら環境を壊すようなことをしてはいけないと思う。	取り組みを推進するなかで、具体的な内容を検討していく。
13	環境に配慮したエコ旅館なども提案できるとよい。伊豆	

	の国市には環境に配慮した旅館がいっぱいあるとよい。	
14	環境で締めつけるのではなく、環境でのおもてなしということ、それによって市内外、国外から来るお客さんが観光と環境にどのような関りがあるのかを見てもらう。	

②「第5章 地球温暖化対策実行計画(区域施策編)・気候変動適応計画」について

	委員発言	対応方針
1	P52 に気温の上昇について、4行目の2021~2022年、世界で0.72℃となっているが、伊豆の国市の約2℃となっており、ベースが違うので注釈を加えないといけない。	注釈を追加する。
2	実質ゼロ(ゼロカーボン)、実施ゼロ(カーボンニュートラル)、実質ゼロなどがあり、記述を統一するとよい。	実施ゼロ(カーボンニュートラル)に統一する。
3	P56の計画の位置づけの文章の意味が分かりにくい。	文章を修正する。
4	P65は2030年、2050年の森林吸収量が同じであり、再エネは非常に増えている。これくらい再エネを増やさないとカーボンニュートラルにならないということであるが厳しい数字であると思うので、森林吸収の取り組みが少ないので増やすとよい。森林の管理というところがあるが、森林整備による吸収の増加はあるが、森林吸収を活かす、木材を活用する、木を木として活用する施策、木を熱として利用するボイラーなどに活用するとよ	森林吸収に関する取り組みを追加する。 用語解説(資料編)に追加する。 PPAのコラムを修正する。

	委員発言	対応方針
	<p>い。食ロスだけでなく、温泉の熱、重油ボイラーを木を燃料として活用することで、さらに活用することはできないか。重油ボイラーは入れ替えの時期があるので、森を使うということは伊豆の国市のよい取り組みになると思う。合わせ技として、森林の活用を考えるとよい。ESCO 事業については、特殊な言葉として用語説明を入れるとよい。P71のPPAのコラムは、一般家庭でも大丈夫なので、企業自治体だけでなく、一般市民の人にも取り組めることを伝えるとよい。</p>	
5	<p>P82は洪水と内水を分けているが、取組などがほぼ同じ内容なので、取り組みはもう少しないか。ハード対策とソフト対策が何かかわかるとよい。健康でも学生向けについては、今後の取組として環境教育(気候教育)も入れないといけない。国民生活については、交通に関する取り組みが載っていないので、具体的な取り組みを入れて欲しい。</p>	<p>国の適応計画の項目に沿って洪水と内水を分けていたが、取り組みなどの内容が重複することから、洪水・内水を統合した構成に修正する。</p> <p>ハード対策とソフト対策についての説明を加える。環境教育、交通の取り組みを追加する。</p>
6	<p>第7節について、伊豆の国市は家庭部門と運輸部門の排出比率が大きいと思うが、家庭でこれをみても何をすればよいのかわからないかもしれない。この後に具体的</p>	<p>計画の中では総論的な内容に留まっているが、取り組みを進めていく中で具体的なもの示</p>

	委員発言	対応方針
	なものが出てくるか。	せるよう努めていく。
7	<p>P66 の取り組みで産業部門・家庭部門・運輸部門とあり、エネルギー活動を促進しますとあるが、促進しますで終わりなのか、実施プランのスキームをお持ちなのか教えてもらいたい。各社が自分のところで1年間に排出するCO₂の量や削減するリテラシーをどの程度、認知しているのか見えてこない。市がどの程度、産業部門に対して声をかけて、CO₂削減するよう努力するつもりなのか。企業と組んで年間何kgのCO₂を何%減らすというモデルケースをつくり、そういうことが広報活動で出されれば、そのエビデンスが元となって協力する会社が増えてくる。市が率先してやっていけば効果的なCO₂削減になる。</p>	
8	<p>運輸部門や産業部門は、大きな会社は環境マネジメントシステムを導入しているが、小さな会社が環境マネジメントシステムを導入する仕組みをつくり、誉めてあげるということも必要だと思う。削減量を市に報告して、それをまとめて公表するような仕組みならお金もかからないし、工事の発注も環境マネジメントシステムを導入すると優遇するなど仕組みを考えるとよい。また、FEMSとか HEMS は読んでも分からないので、説明を入れる</p>	<p>環境マネジメントシステムの導入への補助金制度がある。導入済の事業所への聴き取りを行う中で、小規模な事業者においては、削減といってもこれ以上の削減が難しくて継続されないという事業所もある。継続している事業所について</p>

	委員発言	対応方針
	とよい。	情報を公表するなどして促進 につなげていきたい。
9	P82 の田んぼダムとは何か。河川を整備したほうがよい。	田んぼ自体に水を貯める機能があるため、その貯留機能を発揮させることをいう。水を田んぼにためて稲が水没してしまったら、どうやって補償するのかなど事前に決めていかないと導入が難しいと聞いている。用語解説を追加する。
10	静岡市では麻機遊水地を整備している。かつては沼だったところを農地にしたら、洪水があったので県と市がそこを買い、遊水地に戻した。昔は遊水地機能が働いていたが、田んぼダムとはそういうイメージ。そうすると田んぼの生産としては制限されてしまう。稲を植えていないときならよいが、お米がダメになるので、田んぼダムは難しいと思う。	揮させることをいう。水を田んぼにためて稲が水没してしまったら、どうやって補償するのかなど事前に決めていかないと導入が難しいと聞いている。用語解説を追加する。
11	農業委員会で農地政策が変わってきた。耕作放棄地をなるべく減らす政策であったが、ここは水が漬かる、ここは稲を作れるなど、場所の適正に応じて農地の有効利用を進めるような施策に変わってきている。田んぼに一時的に水をためるということはあるが、農業者も減っている。農業をやめる方が多いので、平野部にも毎日イノシシが来ていて、中山間地では農地として使えないところもある。田んぼも減っている。農地をうまく使えるようにしているが。	
12	大雨が降って、川の水があふれて、田んぼや平地にあふ	山から下りてくる水があり、河

	委員発言	対応方針
	<p>れてしまわないように、一時的に田んぼにためようということだと思う。だが、放水路があるのだから、放水路を開ければよい。排水されなくて、水がたまるのであれば、揚水ポンプで川に水を流せばよいのではないか。</p>	<p>川もオーバーし、出したとしても河川が決壊したら大災害になるので、平地の田んぼがそのための調整池の替わりになっ</p>
13	<p>そればかりではない。平地に降る雨もあり、田んぼがあるから治水がある。それが機能していない。一時的に平野に降っている雨が多いと洪水になってしまう。放水路があれば流せばよいという問題ではない。</p>	<p>て守ってくれているので、放水路を開けただけで水害対策できるといった状況ではない。出すところの水がいっぱいになれば、ポンプを止めるしかなくなる。</p>
14	<p>農業については、農作物の高温障害に対して品種の研究していく必要がある。伊豆の国市だけではできないと思うが、県の研究所と連携するなど、水稻や果樹など品種のことなど具体的な施策を入れるとよい。</p>	<p>農業・林業に関する部分の内容について、具体的な表記を検討する。</p>
15	<p>既に高温に強い米を取り入れている。50年後くらいには、今年の高温は当たり前という話が出ているので、気候は頭にずっとあるが、そのための品種選定はしているが、実際問題は厳しい。</p>	
16	<p>エコキュートのボイラーも出ているが、導入にはかなりの資金がいる。若い農業者もいるが、高齢者の経営者は災害があれば継続できない人も多く、後継者もないの</p>	

	委員発言	対応方針
	で難しいところはあるが、	
17	個々で奮闘するのは難しいので、農業生産法人のような形や、昔からの皆さんでコミュニティをつくり、助け合いながらやらないと難しい。	
18	20年前から団地化しているが、これから有効な土地を何に使うか、多少は導入についても検討できる可能性はある。	
19	P82の農業の話については、適応策を充実させてもらいたい。林業も抜けているので検討をお願いしたい。豊かな森づくりによって気候変動に対応できるかもしれない。伊豆の国市には森林整備計画もあるし、伊豆の国市の真ん中には農業地帯が広がっている。一部、外来種が繁茂して黄色くなっている場所があるが。	
20	伊豆の国市の利点として、外に住んでいる方からするとたぶん、伊豆の国市の水道水はおいしい部類になる。山を管理すれば水もおいしいし、気候変動の時に水の問題は世界的にクローズアップされる。日本人からすると、水道をひねれば水が飲めるという国は、世界にもあまりないので、維持してもっと向上するのであれば、山に注目する必要がある。	
21	P52の伊豆の国市の気温のところは、世界と日本のグラ	注釈を加えるなどの修正を行

	委員発言	対応方針
	フのように表記を足すとよい。	う。
22	P63 のグラフで下のところは、吸収の量が入るので、再生可能エネルギーのグラフも吸収量と同じところに表示するのはどうか。P68 は上部に 1 行だけ文章があるので直したほうがよい。P82 ~ 83 文章が同じという話があったが、内水、市民の P83 「促進すし」とあるので、「促進し」と直したほうがよい。	
23	内水の意味がわからないと思う。	内水氾濫とし、用語解説を追加する。